



地方独立行政法人広島市立病院機構
安佐市民病院広報紙
—第42号—

〒731-0293 広島市安佐北区可部南二丁目 1-1

TEL : 082-815-5211 (代)

<http://www.asa-hosp.city.hiroshima.jp>

◆副院長就任挨拶



地方独立行政法人 広島市立病院機構
広島市立安佐市民病院

副院長・小児科部長

和合 正邦

◆副院長を拝命して

本年 4 月に副院長職を拝命しました和合と申します。一言ご挨拶を申し上げます。私は平成 6 年より当院小児科に勤務し約 20 年になります。皆さんのおかげでなんと小児科勤務医としての「成人式」を迎えることが出来ました。ひとえに皆様方のご厚情のおかげと心より感謝申し上げます。

今年 4 月当院は、広島市民病院、舟入病院、総合リハビリテーションセンターとともに独法化し、広島市立病院機構広島市立安佐市民病院として新たなステージへと踏み出しました。でも皆様にとって一番の関心事は「病院立替えは一体どうなるんじやろうか」ということだろうと思います。副院長の一人として、多幾山院長を補佐させていただきながら、地域の皆様が求める地域に根ざした夢のある新病院の実現に向けて、努力させていただければ幸いです。

◆医療倫理と医療安全

さて、院長から私に与えられました副院長の責務がいくつかあります。①医療倫理、②医療安全、③職員の安全衛生・教育研修、④院内感染、⑤カルテの保管・開示、⑥「まめでがんす」などの広報誌やホームページ運営という広報業務などです。皆様にはあまりなじみのない語句が並んでしまいました。医療の質を高めるためになくてはならないキーワードばかりなのです。このうち、医療倫理と医療安全について自身の考えを述べさせていただきます。

【医療倫理】患者さんを治療していく上で治療方法や治療薬の進歩は欠かすことは出来ません。この目的の

ために行われる研究には、医師主導型の臨床研究と新薬を用いた企業治験の二つがあります。前者は医師の熱意に基づく社会貢献の側面が強い自主研究といえます。後者は開発された新薬を、企業側が治療計画を立てて病院側に依頼し実施するものです。効果が高く、副作用の少ないことが証明され保険適応されれば、患者さんにとって大変大きな恩恵となります。ところが、昨今企業や研究者による幾つかの事件により、臨床研究や企業治験に対する信頼性が大きく損なわれてしまいました。これらの事件を対岸の火事とせず、患者さん第一の視点に立って、臨床研究や企業治験を審議・監視し、臨床研究の質を確保してまいります。

【医療安全】医療の質が問われる中で、医療安全はその中心的役割を占めるようになりました。日常の医療現場では多くのヒヤリ・ハット報告があがってまいります。人は思い込みや確認漏れなどのエラーをしまうことがあります。人を対象とする医療行為の場合、人為的エラーは重大な医療事故や想定外の事故へと直結する危険性を孕んでいます。医療安全の目的は、医療現場のシステムのどこに問題があるために人為的エラーがおこったのか、それを防ぐためにはいったいどのようなシステムを構築していけばいいのかを検討していくことにより、人為的エラーを最大限防止していただくにあります。患者さんが安心して医療を受けていただくために十分に注意を払いながら、一致協力して安全なチーム医療を実践してまいります。

◆「愛と誠の奉仕」を旗印に

当院が今後何十年にも亘って皆様に愛され、頼りにされる広島北部地域の基幹病院であり続けるため、職員一同、院是「愛と誠の奉仕」を旗印に、医療倫理や医療安全を十分確保し、患者さん第一の視点に立った病院運営を心がけてまいります。そして、皆様が期待されておられる夢のある新病院建設に向けて、すべての病院職員と共に力を合わせて歩んでまいります。皆様どうかこれからも安佐市民病院をよろしくお願い申し上げます。



脱水症を防ぎ、夏を快適に 過ごしましょう!

今年も暑い夏がやってきました。皆さんが快適に夏を乗り切るため、脱水症に陥らないようにするためにはどうしたらよいのかについてお話ししたいと思います。

私たちの身体の中の水分は、身体の代謝・呼吸・汗によって一日当たり1L、おしっこや便の形で1Lの合計2Lが身体の外へと出ていきます。暑い夏には身体の温度を下げようと、私たちが知らない間にたくさんの汗をかきます。戸外の炎天下での遊びやスポーツ、仕事中に脱水症が生じやすいことはよく知られています。でも、暑い夏にエアコンをつけず、風通しの悪い室内で過ごしているうちに、たくさんの水分が失われて脱水症になり、汗が出なくなって身体に熱がこもり、熱中症という危険な状態に陥ることがあります。

次のような症状が見られたら、脱水症の危険信号です。

- ①元気が無くぐったりする
- ②尿量が少なく、尿の色が濃い
- ③口の中や唇がかわく、眼が落ちくぼむ、皮膚をつまんで離すとしわがそのまま残る

脱水症の危険信号に気づいたら、日陰の風通しの良い所へ移動して、水分をしっかり摂取しましょう。万が一意識がもうろうとし、水分を摂ることが困難な場合や急激な体温の上昇があれば熱中症の恐れがあります。すぐに医療機関を受診しましょう。

年齢を問わず糖尿病を患っておられる方、食生活など生活習慣が乱れている場合には、血液が濃くなって固まりやすくなり、その結果脳梗塞や心筋梗塞を発症する危険性があります。糖尿病を患っておられる方では血糖の適正なコントロールを心がけましょう。またご自身の生活を振り返ってみて、無理をされているようであれば、できるだけ規則正しい生活を送るよう心がけてください。

脱水症を防ぐためには、どのような水分の摂り方を心がけていけばよいのでしょうか。

ひとは一汁三菜の食事を3食摂ることにより、1日に1Lの水分を摂取することが出来ます。食事以外で摂取すべき水分量の目安は、ご高齢の方では1L、一般成人の方では1.5Lです。また普段使っている湯呑の容量やペットボトルの水分量の減り具合を確認することで、およその摂取水分量を推し量ることが出来ます。

ご家族の中で、水分をとるよう促してもご本人がなかなか飲みたがらない場合には

- ①好きな飲み物を用意し、いつでも飲めるようにする
(緑茶、紅茶、コーヒー、オレンジジュース、スポーツドリンクなど)
- ②家族や友達と会話を楽しみながら一緒に水分を摂取する
- ③ゼリーや寒天などの形で水分を摂る
- ④水分を少しずつ、頻回に摂取するよう促す

といった工夫が効果的です。



総合診療科副部長
原田 和歌子

食中毒

を防ごう

医療支援センター
感染管理認定看護師
大野 公一



食中毒予防の三原則

食中毒は一年中発生しやすい状況ですが、夏季は特に要注意です。高温多湿により、細菌の繁殖が早くなり、食べ物が腐りやすくなります。厚生労働省では食中毒の発生経過に合わせ「つけない」「増やさない」「やっつける（殺す）」といった食中毒予防の3原則を提唱しています。

その3原則とは

1. 菌をつけない

- ① もっとも大切なことは手洗いです。手にはたくさんの細菌が付着しています。手洗いが不十分のままお菓子を食べたり、あるいは、手に傷があると細菌が付着しやすく、おにぎりやおはぎなどを素手で作ったりすることは発症のリスクを高くします。ご家庭の石鹸と流水で十分であり、洗うことは非常に大切です。食材も洗えるものはすべて流水下で洗いましょう！
- ② 魚、肉に使用した調理器具は使用ごとに洗いましょう。特に、まな板は熱湯をかけると消毒効果がありますので心がけましょう。

2. 菌を増やさない

- ① 調理をしたら時間を置かず、出来るだけ早く食べましょう。「熱いものは熱いうちに、冷たいものは冷たいうちに」。温かくして食べる料理は65℃以上、冷やして食べる料理は5℃以下にしておく。また、調理終了後2時間以内に食べることが良いといわれています。
- ② 冷蔵庫は詰め過ぎず、長期保存は避けます。肉や魚などは他の食品と区別して保管しましょう！
- ③ タオルやふきんは乾いた清潔なものに交換しましょう！

3. 菌をやっつける

- ① 食品の加熱の目安は「中心部まで75℃で1分以上（ノロウイルスは85℃1分以上）」。
- ただし75℃で1分以上といった加熱条件は、明らかに加熱し過ぎて、この加熱条件ではおいしく頂けなくなるといった批判もあります。この加熱基準はあくまでも目安と考えて、食材の切り方、加熱方法などを工夫する必要があるようです。

夏季は暑さによる食欲減退や夏バテ等で体力、免疫が低下します。食生活を見直した健康管理も大切です。

もし下痢、おう吐があったら

家庭内で下痢、おう吐を発症した場合はタオルを分けて使用します。症状がある人がウェットティッシュやティッシュペーパーを使用するのも良いでしょう。便座などの消毒はご家庭の5～6%次亜塩素酸ナトリウム液（ハイターRなど）を0.02～0.05%に希釈して清拭します。水道水1Lに対してハイターR液を4mL（0.02%）～10mL（0.05%）です。洗濯物は排泄物などを洗い流し、家族とは別に洗濯を行います。洗濯物は十分に乾燥させることも大切です。天日干し、乾燥機やアイロンによる加熱と乾燥は細菌の減少に効果があります。

症状がひどくなるようでしたら、早めに近くのかかりつけ医を受診しましょう。

食中毒を防ぐの三原則





眼科主任部長
末廣 龍憲

加齢黄斑変性症

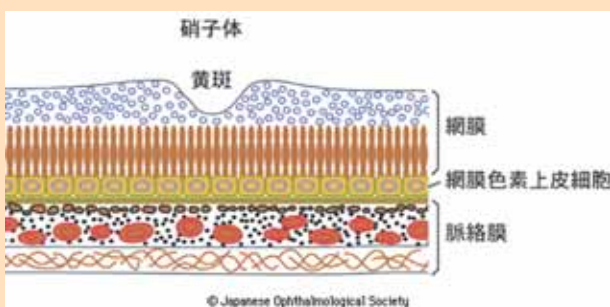
について



1. 視力が低下する難病

黄斑とは網膜の中心部で視力に係る大切な場所で、光を感じる細胞がたくさん集まっています（図1）。加齢黄斑変性症はこの黄斑が障害（新生血管からの出血）され、急激に視力が低下する怖い病気です（図2）。

（図1）



（図2）



2. なりやすい人はどんな人？

危険因子は紫外線やタバコが影響します。特に日本人では喫煙率の高い男性に多く、体質も関与しています。

3. 最近増えています！

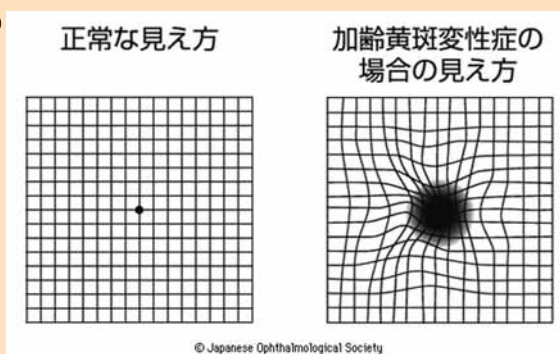
視覚障害（平成17年度）の調査では、緑内障、糖尿病網膜症、網膜色素変性症について第4位。50歳以上の1.2%（80人に1人）で年齢に伴って増加します。

4. 早期発見が重要、変視症に注意

まだまだ難治な疾患ですが、早期発見が重要です。必ず片眼で、老眼鏡はかけたままでチェックしてください。格子状の図（アムスラーチャート）をみて、線がゆがんで見えると要注意です（図3）。見え方がおかしいと気づいたら、すぐに眼科に受診してください。

以前は有効な治療法がなかったのですが、最近では目に薬を注射する治療によって、視力改善、維持が可能となっています（図4）。

（図3）



（図4）



「医療クーク」の活動について

私たちはブルーの上衣、白いズボンの制服で、院内では「医療クーク」と呼ばれています。正式には「医師事務作業補助者」という職種で、名前の通り医師の事務作業を補助することで「医療現場の質の向上」を図っています。当院では平成21年度から導入されており、現在は20名が勤務しております。基本的な業務としては医師の指示のもと、

- ①診療記録の代行入力 ②医療文書の作成代行
③医療の質の向上に資する事務作業 ④行政への対応

などを行っています。

患者さんと接する機会はなかなか少ないのですが、例えば外来診察の時など、医療クークが電子カルテに入力することで医師が患者さんの顔を見て診察する時間を増やし、また、医師の事務作業を補助することで待ち時間の短縮を図るなどの役割を担っています。

「医師事務作業補助者」は諸外国では定着している職種ですが、日本ではまだまだ発展途中です。これからも患者さんに満足していただける医療を提供できるよう、医師の診療の補助は勿論のこと、コミュニケーションを大切にチーム医療の一員として必要不可欠なスタッフへと成長していきたいと思います。

どうぞ、よろしくお願いいたします。



がん診療連携拠点病院共催 市民講演会開催のご案内

当院をはじめとする広島医療圏に所在するがん診療連携拠点病院（広島大学病院、県立広島病院、広島赤十字病院、広島市立広島市民病院、広島市立安佐市民病院）では、平成20年度から毎年1回共催で市民講演会を開催しています。

これまで、がんの診療についての最新情報について主に講演会を行って参りましたが、今年度は、「知ろう 学ぼう これでいいんだ！ がんと療養生活」をテーマとしております。がんという病気を抱えながらも、日頃の生活をされるにあたり「こんな療養生活もあるんだ。こんな過ごし方でいいんだ。」といったことをお伝えできればと考えております。

今回は、がん相談員や患者家族の方のお話に加え、がん患者会「よつばの会」代表でもある原千晶さんをお招きし、ご講演をいただく予定としております。

皆様の多くのご参加をお待ちしております。

日付：平成26年10月18日（土曜日）

時間：午後1時30分～午後3時45分

詳しくは、後日、ちらし、新聞、がん拠点病院ホームページなどでご案内いたします。



〈原千晶さんプロフィール〉

1974年 北海道帯広市生まれ
1995年度クラリオンガールとして芸能界デビュー
2005年 30歳の時に子宮頸がんを発症
2009年年末に再度子宮にがんが見つかる
2011年7月 婦人科がんを経験した女性の会「よつばの会」設立
現在、TBS「ひるおび」火曜コメンテーターなどTVにも出演中

【病院機能評価】



安佐市民病院の理念と基本方針

理 念

- ・愛と誠の精神をもって医療を提供します。
- ・地域の基幹病院として高度の医療・ケアを行います。

基本方針

1. 患者さまの立場を尊重し、理解と納得 にもとづいた医療を行います。
2. 安全な医療と快適な療養環境の提供に努めます。
3. 地域と連携し、地域医療、救急医療、トータルケアの水準の向上に努めます。
4. 最新の医療にとりくみ、医療・医学の進歩に貢献します。
5. より良い医療サービス提供のため、健全な病院運営に努めます。

処方せんFAXコーナーを上手に活用しましょう!

平成7年3月の院外処方せん発行に伴い安佐薬剤師会によるFAXコーナーの運営が始まりました。

平成14年8月院外処方箋全面発行に伴いFAX送信機が複数台設置され現在に至っております。

現在1ヶ月に2,000枚以上の処方せんを安佐北区を中心に安佐南区、広島市中心部、安芸高田市、山県郡、三次市等の薬局へFAX送信しております。

FAXコーナーとは、病院で発行された院外処方せんを、「かかりつけ薬局」（自宅の近く・職場の近く・帰り道の途中など自由に選んだ薬局）に事前にFAX送信する際のお手伝いをするコーナーです。薬局に薬を取りに行く日を指定することもできます。

患者さんが薬局へ処方せんを持っていく前に薬局では、あらかじめFAXされた処方せんをもとに薬の用意、処方医師への問い合わせ事項の確認等を行い、処方せんをお持ちになった時にお待たせする時間を極力短縮し、正確な調剤ができるようにしています。

FAX送信にあたっては患者さんの負担は一切ありません。ぜひともFAXコーナーのご利用をお願いいたします。

安佐薬剤師会 保険薬局部会 青野 拓郎



正面玄関改装のお知らせ



この4月より、安佐市民病院は正面玄関を改装して患者さんをお迎えしております。当院に初めていらっしゃる方でも迷わないように、すぐ目に留まる位置に院内の平面図を掲示いたしました。再来受付機は入って右手に設置しております。

今後も、患者さんにとって利用しやすい病院を目指して改善を重ねていきます。



入退院受付の移動のお知らせ

このたび、入退院受付の場所を変更いたしました。正面玄関を入って左側、初診受付のとなりになりました。入退院をされる患者さんは、こちらの受付にお越しください。

ご不明な点やご要望などがございましたら、お近くの職員になんでもお尋ねください。

